様式1

令和５年度　学校評価表

学校教育目標	感謝と貢献

a　ミッション	地域の教育力を生かした御調プライドを醸成する教育の推進	a　ビジョン	○ 安心・安全で，生徒が夢と志を抱き，心豊かに生き生きと活動する学校 ○ 自ら学び，考え，判断し行動する生徒を育成する学校 ○ 心豊かに，自他を尊重し，共に学び，高め合う生徒を育成する学校

尾道市立御調中学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
御調クロスロード（時間軸と空間軸）	全ての子供たちの可能性を引き出す教育実践	学習課題（問い）の工夫による学習意欲の向上	○学習課題の設定の工夫 ・生徒の疑問に基づく学習課題を設定	各教科において「授業が楽しい」と答える生徒の割合	85%	76%		89%	B	各教科において「授業が楽しい」と答える生徒の割合（全校生徒・全教科を合わせた平均）は75.5%であった。 教科やクラスによって差があり，授業内容ができていないと感じている生徒の肯定的な回答が低かった。	5	1	2	先生方が日々頑張っているのは理解できる。 「楽しい」とは難しいので，「授業に前向きに取り組んだ」という質問でよいのではないか。 学習課題の設定の工夫の取組が行われたのか，指標にあってもよいのではないか。 中学１年生の評価が低いのが気になる。内容が難しいのか，単に授業の問題なのか。	基礎・基本的な問題の繰り返しを行い，授業内容が分かると感じさせる生徒を増やす。 各教科の日々の授業の学習課題（問い）を，生徒が学びたいと思えるものに工夫改善していく。
		各種調査，定期テスト・単元テストの平均正答率の向上	○基礎学力の定借への取組の工夫 ・「学力アップ講座」や「補充学習」の実施 ・「週末課題」の実施	１，２年　標準学力調査，３年全国学力学習状況調査の正答率　全国平均以上	全国平均を上回る	3年生全国学力調査結果は，全教科で全国平均を下回った 各学年ごとの5教科において，期末の平均点が中間を上回った教科は33%		0%	D	３年生の全国学力調査の結果は，各教科の正答率が，国語66%（全国69.8%），数学41%（全国51.0%），英語41%（全国45.6%）であり，全教科で全国平均を下回った。 各教科共通して，問題の説明文や資料等を読み取る読解力に課題がある。				学力の定着しない原因を分析し，取り組んで欲しい。 学力調査の回数が少ないものでの達成度は低くなると思う。 小学校で達成できているものが中学校では未達となっている。平均点を上回った生徒と下回った生徒で指導法を変えることが必要ではないか。 全国平均を下回った０%にする必要はないのではないか。	語彙力や読解力を高めるために，新聞記事や新聞のコラムの要約や感想を書く取組（NIEタイム）を継続して実施していく。また，各教科の授業で図書館を利用した取組を行い，本に触れる機会を増やしていく。 各学力調査の結果を分析し，生徒の実態に合った指導（資料を読み取らせ，考えを書かせたり，説明させたりする機会を増やす等）をしていく。
				定期テスト・単元テストの平均正答率の向上	平均正答率が前回を上回る			33%	D	1学期に受けたテスト（中間試験・期末試験）において，各学年ごとの5教科（国，社，数，理，英）の平均正答率が中間試験に比べて期末試験で向上した教科の割合は33%（５/15 教科）であった。				小単元でテストを行えば，正答率も上がっていくのではないか。 学力が低いなら指導方法を検討してみてはどうか。	日々の授業での基礎・基本的な学力を定着させる取組と共に，定期試験前の「学力アップ講座」や「補充学習」を継続して行い，参加した生徒のうち，生徒アンケート「学力アップ講座（週末を含む）は役立ちましたか」の肯定的評価の割合（一学期は69%）がさらに高まるように講座内容を工夫し，基礎・基本の学習内容の定着を図る。
	「御調プライド」で仲間とともに高め合う力と自尊感情の育成	生徒相互の関わりによる自己有用感の涵養	○エリア活動・生徒会活動の充実 ・エリア活動の設定 ・各委員会キャンペーンの実施	「自分にはよいところがある」と答える生徒の割合	85%	76%		90%	B	生徒アンケート項目「自分にはよいところがある」「自分の良さは周りから認められていると思う」の２項目における肯定的評価の平均は76%であった。この結果を，学年別でみると，１学年58%　２学年80%　３学年91%であり，学年があがるにつれて自己有用感の高まりがみられる。これは，学校行事や生徒会活動において，学年での協働的な活動はできているものの，異年齢集団での協働的活動が十分ではないことで，経験の少ない１年生が低い結果となったと考えられる。	7	0	1	自己有用感が高まっているのは取組の成果だと思う。 １年生のアンケート結果が低いのにびっくりした。アンケートの対象層と活動の力無の工夫が必要ではないか。 １年生のアンケート結果が低いのが気になった。６年生のときから比べ低下した原因を分析し，一人一人の良さが感じられる工夫が必要である。 環境の違いから戸惑いもあると思う。生徒達がこれから元気で活力ある生活ができるよう協力していきたい。	エリア活動の充実を図るために，体育大会や球技大会、生徒会活動において，エリアでの活動の機会を仕組む。
				「自分は人の役に立っていると思う」と答える生徒の割合	85%	83%		98%	B	生徒アンケート項目「人の役に立つ人間になりたいと思う」「ボランティア活動に積極的に参加したいと思う」の２項目における肯定的評価の平均は83%であった。これを，学年別でみると，１学年81%　２学年82%　３学年86%となり，全体的に，この評価指標における生徒の自己有用感が高まっていると考えられる。しかし，生徒アンケートの項目は意欲的な側面を問うものであり，生徒が実践しているか否かは不明である。				中学生は他校との交流が多くなる。その時勉じぬ行動ができるのも人の役に立つ行動である。その様な行動は他校からもすごいと思われることである。 学年別で地域との交流が違うので，目標値を学年別にすべきではないか。	学校行事やクラスの取組の中で、一人ひとりが役割を担えるようにしていくとともに、ボランティア活動の場を設ける。
	地域への感謝の気持ちと自ら貢献しようとする意欲と実践力を持った生徒の育成	地域貢献活動への実践意欲の向上	○小中高連携や地域ボランティア活動の充実 ・小中高連携や地域ボランティア活動の設定	「御調（地域）に愛着を持っている」と答える生徒の割合	90%	74%		87%	B	生徒アンケート項目「私はこの御調町が好き」「地域の行事や取り組みに参加しようと思う」の２項目における肯定的評価の平均は74%であった。これを，学年別でみると，１学年67%　２学年77%　３学年76%となり，この評価指標における生徒の実践意欲がやや低くなっている。地域貢献活動や小中高連携に関心があるものの，個人的に地域行事等に参加する機会を得られない生徒がいるのではないかと考えられる。	7	0	1	生徒が地域行事に参加することができるよう，地域との連携もいるのではないか。 地域に出向き，行事に参加するという授業はできないのか。 生徒が気軽に参加できるボランティアがもっとあるとよいと思う。地域の中の居場所も必要である。 「みあがり踊り」の指導を取り入れて欲しい。 学年別に目標値を設定してはどうか。 中学生も地域と関われる機会が増やせたらよい。 地域行事のアピールも必要である。	地域が予定している行事等に参加する機会をつくる。また，地域貢献活動などの機会を通して、地域の方々と協働的な活動ができる仕組みづくりを行いたい。
	教職員が笑顔で生徒の前に立てる，ワーク・ライフ・バランスの実現（働き方改革）	業務改善の志向	○業務に専念できる環境の整備 ・教育環境整理（教材庫の整理など）	子供と向き合う時間が確保されていると感じている教職員の割合	90%	90%		100%	A	子供と向き合う時間が確保されていると感じている教職員は90%であった。しかし，在校時間を長くすることで，子供と向き合う時間を作り出している教職員もいることが課題となっている。	6	0	1	子供と向き合う時間は部活動も大切であるが，学習面、相談活動で向き合う時間を作り出す工夫も必要である。	時間外勤務時間を削減しつつも子供に向き合う時間の確保ができるよう，具体的な業務の削減に取り組むとともに，生徒への指導の在り方についても検討をしていく。
			○部活動指導に係る教員の負担軽減 ・部活指導の交代制実施	時間外勤務時間の削減。 ・前年度に比べ減少又は１ヶ月の合計が60時間以下の職員の割合	85%	62.5%		74%	C	４月当初と比べ，７月になるにつれて結果は向上した。７月の結果は，16人中10人（62.5%）が目標値を達成した。よって，目標としていた85%の教職員の時間外勤務時間の削減には至らなかった。具体的な業務の削減と部活動の交代制の確実な実施が充分ではなかった。				部活動やPTA行事等，先生方が積極的に参加しているので，子供たちも頑張っている。しかし，各自の時間もしっかり確保してください。 健康に気を付け，業務してください。 部活動指導を地域の団体等に協力してもらうのはどうか。 勤務時間の削減は学校毎にどうにかできる問題ではなく，教育現場全体で取り組まなければ無理である。	時間外勤務時間が60時間以下の教職員は８人と全教職員の半数であるため，業務の削減や業務分担の平準化を進めるとともに，部活動指導の交代制を確実に実施する。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。